

平城京左京三条一坊十五坪の調査(平城第534次)

2014年6月3日から7月24日にかけて、店舗新築にともなう事前調査として、平城京左京三条一坊十五坪の発掘調査をおこないました。調査面積は400㎡。この場所は、有名な長屋王邸跡の西どなりにあたります。過去には今回の調査区の北方を調査しており、その成果から十五坪とその北の十六坪は一体となっていること、四面に庇を持つ大型の掘立柱建物や京内最大規模の井戸のほか、建物群が密に並ぶ敷地であることがあきらかになりました。

今回の調査の結果、南北に庇を持つ東西棟掘立柱建物1棟、東西掘立柱塀1条ないし2条、東西掘立柱建物または東西掘立柱塀1棟(条)、南北掘立柱塀1条を検出しました。中でも東西棟掘立柱建物は、柱掘方の規模が一辺約1.5mと大型である点が注目されます。調査区東端付近で妻柱の柱掘方を検出したことから、この建物の東端がここにあることがわかります。この建物はさらに西に続くものと考えられますが、その規模は、今後の調査に委ねるほかありません。

また、この東西棟掘立柱建物は、これとほぼ同じ場所に位置する東西掘立柱塀よりも後に建てられたことが、遺構の重複関係から確認できました。このことから、奈良時代の中で、この一帯の土地利用において、少なくとも二つの段階があったことがわかります。

出土遺物には、奈良時代を中心とする瓦や埴、土器等があります。平城京の一等地であるこの土地がどのように利用されていたのか、過去の調査とあわせて総合的に検討していきたいと思えます。

(都城発掘調査部 庄田 慎矢)



調査区全景(北西から)